

ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト始動!

問合せ
子ども家庭支援センター
☎3993-1051

これまで

東京都と連携し、子どもを虐待などから守る体制を整えてきました

～児童相談体制「練馬区モデル」～

平成29年度

- 児童虐待の対応に関する連携協定を締結
- 都区双方の職員がケースの援助方針会議への参加を開始

令和2年度

- 都内初! 都区共同の「練馬区虐待対応拠点」を設置

迅速かつ一貫した児童虐待への対応をするため、区子ども家庭支援センターと同一施設内に虐待対応拠点を設置しました。3年8月からは、虐待通告に対する初期対応機関の振り分けを開始しました。

令和6年6月1日

東京都練馬児童相談所が 区子ども家庭支援センターと 同一施設に開設

さらに速やかな対応が可能に

- 虐待通告に対する初期対応機関の振り分けを継続
- 日常的な合同ケース会議
- 合同家庭訪問・面接
- 児童相談所と子ども家庭支援センターの合同研修



練馬区のみ都児童相談所との連携を強化!

当初、他22区が区児童相談所の設置に向かう中、区子ども家庭支援センターによる子どもと保護者への寄り添い支援と、都児童相談所による施設入所などの広域的・専門的対応との連携に取り組んできました。



都区共同の虐待対応拠点は他区にも拡大中!

都は虐待対応拠点を、台東区・中央区・渋谷区・墨田区、目黒区にも設置しました。



プロジェクトへの応援メッセージ

若者を支援し、未来のねりまを活性化

児童養護施設や里親の手を離れたとしても、自立が難しい、行き場のない孤独を抱えた若者たちがいます。「子どもたちがしっかり自立するまで支援していく」という区の取り組みに共感します。こういった取り組みが練馬区だけでなく、多くの自治体に広がることを願っています。前川区長とは、区長が都職員時代からの旧知の間柄です。東京都練馬児童相談所の開設が、今回の「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」につながったと思います。これまで都で力強く児童養護を推進してきた区長の集大成です。感動しました。

NPO法人里親ひろば
ほいっぴ 代表理事
坂本洋子さん



多くの支えが子どもたちの安心に

今年度より区の方々のご尽力で施設出身者を支える事業が実施されること、感謝申し上げます。子どもたちへお金の支援だけでなく、多くの人々の支えがあるという安心感が彼らの生きていく糧になると確信しています。今後ともよろしく願い申し上げます。

児童養護施設
錦華学院
施設長
神浩樹さん



巣立った子どもたちへの心強い支援

石神井学園が練馬区に移転をして、今年で83年になります。この間、多くの子どもたちが当学園から巣立っていきました。この「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」により支援をしていただけることは、退園者にとって大変心強いことです。今後も退園者の夢に対する支援の輪が広がることを願っています。

児童養護施設
東京都石神井学園
園長
松尾正純さん



これから

児童養護施設や里親の家庭で 育った若者の自立を支援します

～ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト～

都区連携

都内初

児童養護施設などで育った若者は18歳を迎えると、施設からの自立が求められます。区は、生まれ育った環境によらず、自らの意思で希望する未来を切り開いていけるよう、都児童相談所と連携し、生活や居場所の支援などを行います。



▲詳しくは区HP

「ささえる」 生活の支援

生活支度金や、退所後5年間にわたり、家賃と光熱水費を補助します。困窮し、住む場所がなくなった場合には、一時的に住まいを提供し、生活の立て直しを支援します。



「つながる」 居場所の支援

定期的に若者が交流できる場の提供や、住まい・就職に関する相談を行います。LINE相談や弁護士による法律相談も行います。



「つたえる」 周知・啓発

里親と里子を支援する団体と協働し、講演会などを通じて支援の必要性について理解を広めていきます。



6/14(土) 講演会「聞いてみよう 社会的養護を経験した若者の声を」

日 6月14日(土)午後1時30分～4時20分 区役所アトリウム地下多目的会議室 図 NPO法人里親ひろば ほいっぴが副代表/外川達也ほか 図 100名(先着順) 区HPまたは電話、ファクスで①講演会名②住所③氏名(ふりがな)④電話番号⑤参加人数を、6月10日(火)までに子ども家庭支援センター ☎3993-1051 FAX 3993-8215 ※保育室(生後58日以上)の未就学児対象。定員7名)を利用したい方は6月3日(火)までに、手話通訳を希望する方は6月10日(火)までにその旨もお知らせください。

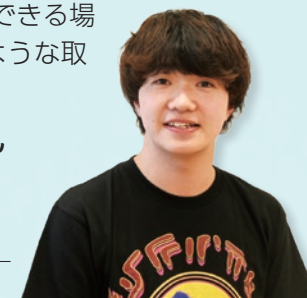
児童養護施設 錦華学院を巣立った方からメッセージ

施設で育った若者への支援が広がってほしい

錦華学院での生活は、常に見守ってくれる職員さんや仲間がいて、みんなで楽しく安心して過ごせました。職員さんから「人に優しくする」「人の気持ちを考える」ことを教わり、社会で大切な価値観を身に付けることができました。錦華学院を退所する時には、守られていた環境から急に1人で生活することになるので、大学に通いながらアルバイトをして家賃を払うことができるかなど、全てが不安でした。4月から「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」が始まったと聞き、児童養護施設などで育った若者への関心が広がっていることをうれしく感じます。また、家賃補助はもちろん、施設を出て1人で暮らすと周りに頼れる人がいないことが多いので、相談できる場所や同じ悩みを共有できる居場所ができることはありがたいです。このような取り組みが、全国に広がっていくといいですね。

工藤翔夢さん

練馬区の錦華学院で18歳まで過ごす。大学を卒業し、4月から調布市にある児童養護施設「調布学園」で働く。



プロジェクトへの 寄付を募集

～皆さまからの温かい寄付をお待ちしています～

児童養護施設や里親の家庭で育った若者の不安を解消し、自立を支援するために活用します。寄付は、ポータルサイト「ふるさとチョイス」から申し込みます。 ※納付書での納付を希望する方は、お問い合わせください。

寄付はコチラ

